

〈図書紹介〉

『未来のための探究的道德 「問い」にこだわり知を深める授業づくり』

荒木寿友編著 明治図書出版 2019年

立命館大学教職大学院1年次生 芝山 将至

学習指導要領改訂に伴い、教科化された「特別の教科道德」が全国の小中学校で実施され、道德は教科に「格上げ」されただけでなく、教科の領域に留まらない学校全体における道德教育の要として新たに位置づけられた。しかしながら、道德の教科化とそれに伴う変化が起こったと言えど、これまでの道德のあり方や実践を具体的にどのように変えていくことが求められているのか、また、実践する上で生徒の成長や変容をどのように見取り、評価していくのか不明瞭な点が多い事も事実である。その現状の中、ありがたいことに本書はこれから求められる道德の1つの姿、手法として知の探究的な学習に基づく「考え、議論する道德」を提示するとともに、理論と実践として評価の方法まで説明している。

第1章理論編では「特別の教科道德」で重視されている資質・能力として「思考力」を道德の教科化の背景と教育政策等から導き出し、その資質・能力を育成するための活動として国際バカロレア教育の知の理論(TOK)に基づいた「知」を問い直す活動を活用した知の探究的な学習に基づく「考え、議論する道德」による実践とその意義を論じている。

第二章実践編では知の探究的な学習に基づく「考え、議論する道德」の授業づくりと実践を紹介している。授業作りにあたってのポイントやルール、問いの作り方を丁寧に説明しているだけでなく、12本の授業

モデルと指導案を紹介し、実践の手法を明示している。紹介されている授業モデルは「優しさ」や「仲間」、「笑い」といった普段当たり前だと思っている日常生活にありふれた事柄を切り口にした授業モデルであり、多くの教育現場において道德を実践する上で参考となる点が多い。

第3章では道德科の評価について、国語や数学、社会といった一般的な教科においてなされる評価と比較・対置し、道德科において求められる評価のあり方を提示しているだけでなく、生徒の何を見取り、変容や成長等をどのように評価していくのかについて、道德ノートやワークシートなどを活用したポートフォリオ評価を例に生徒自身の自己評価と教員と生徒から見た相互評価による多面的・多角的かつ具体的な評価方法を提示しており、道德においてどのような見方・視点で評価していくかについて大変参考になった。

最後に、本書は道德の教科化に伴った「考え、議論する道德」とその手法を提示しているだけでなく、12本の実践例からこれからの道德の授業の在り方とその中身を具体的に学べることに加え、授業を終えた後の生徒の成長などをどう見取り評価していくのかについても学び、理解することが出来る一冊だ。

